

令和8年度の  
研究開発について  
(桜野小学校)

1. はじめに『志摩中校区研究開発学校における研究の概要』

2. 桜野小学校における研究の概要

3. 研究内容Ⅰ（子ども）『やるキッズタイム』

4. 研究内容Ⅰ（教師）『ゴールデンタイム』

5. 研究内容Ⅱ（40分授業）『主題研究』

6. 研究組織図

7. おわりに

# 1.はじめに『志摩中校区研究開発学校における研究の概要』

【表1】研究内容等一覧

<p>研究内容Ⅰ 「志摩中校区各学校の学校や地域の実態及びその特色を生かした教育活動及び「教職員の資質・能力の向上を図る裁量的な時間の運用の在り方」</p>	<p>指針1 児童生徒の主体性を育む探究的な教育活動 <b>やるキッズT</b></p>	<p>① 従来の教育課程で育成する資質・能力を基盤とし、更なる充実・発展を意図した教育活動の質的向上を図る取組</p> <p>② 自らの興味・関心や学習上の課題等に対し、児童生徒が主体的に探究的な学習活動を選択・判断できる柔軟性のある教育活動</p> <p>③ 児童生徒や学校の実態及び地域がもつ特性や教育力を最大限に生かした教育活動の工夫</p> <p>④ 児童生徒の意見を聴取したり意思決定に参画したりするなど、児童生徒の自主性や主体性を高める工夫</p>
	<p>指針2 自ら学び続ける教師を目指した教職員の資質・能力の向上を図る取組 <b>ゴールデンT</b></p>	<p>① 教職員自らの強みや課題意識に基づき、教職員自らが企画・運営を行うなど、主体的に資質能力の向上に取り組むことができる柔軟な研修等の機会の設定</p> <p>② 児童生徒の教育相談や学校外の方々と教職員が協働的に取り組む活動の設定</p> <p>③ 教職員の資質・能力の向上を効果的・効率的に図るために、個人目標の設定や取組内容の決定への福岡県教員育成指標の活用</p>
<p>研究内容Ⅱ 「各教科等の授業時間短縮に応じた授業におけるカリキュラム・マネジメントの在り方」 <b>40分授業</b></p>	<p>① 教科等における内容を効果的・効率的に学ぶカリキュラム・マネジメント及び教科等横断的なカリキュラムのデザイン</p> <p>② 授業時間短縮に応じた指導過程の最適化</p> <p>③ 知識及び技能の習得や習熟、思考力、判断力、表現力等を育成するための、効果的・効率的な支援や指導の手立ての創出</p> <p>④ 児童生徒の学びを一定のまとまりとして捉えて行う学習評価の内容や方法の整理と適正化</p>	

## 2. 桜野小学校における研究の概要

☆桜野小学校の重点目標☆

「やってみよう！」と主体的に考え、行動する子どもの育成

【合い言葉】『わくわくすること、やってみよう』

【教師】 **子どもの「やってみよう！」を支援する力の育成** ※意欲付けや仕掛け



○研究内容Ⅰ（子ども）

指針Ⅰ：児童の主体性を育む探究的な教育活動の設定

⇒ 月・火・水の『やるキッズタイム』

○研究内容Ⅰ（教師）

指針Ⅱ：自ら学び続ける教師を目指した教職員の資質・能力の向上を図る取組

⇒ 木・金の『ゴールデンタイム』

○研究内容Ⅱ（40分授業）

教育課程内で行う授業の在り方を究明する。短縮された40分の授業における指導や支援の在り方を授業実践により検討する。

⇒ 校内研修の『主題研究』

### ★桜野小学校の教育課題★

- ・自ら課題を把握して主体的に問題解決できる学力
- ・違いや個性を認め合い、主体的に関わる協働性
- ・自分の健康や役割の自覚

### ★桜野小学校の経営課題★

- ・校内研究の日常化と実践的指導力の向上
- ・チームによる課題解決と主体性、創造性の発揮
- ・家庭、地域との共同による教育活動の推進

## 2. 桜野小学校における研究の概要

### 【ロードマップ】

	R7	R8	R9	R10
<b>研究内容Ⅰ</b> ①やるキッズ ②ゴールデン	①②裁量的な時間の 使い方検討・実施 ↓ やるキッズ, レベル アップ, ゴールデン タイム	① <b>個人探求に重点            をおいた裁量的な            時間の実施</b> ②研究組織図・個 人課題を基にした グループ活動の実 施	①地域連携のシス テム化 ・地域と大人との 関り ・個人探求の場の 拡大 ・交流、発表の場 の拡大	①学校行事と地域 行事の融合 ・大人とコラボ ・カリキュラム マネジメント
<b>研究内容Ⅱ</b> 『40分授業』	教科等の40分授業 における学習過程の 具体化	指導内容の重点化 における単元構成 の工夫	40分授業におけ るパフォーマンス 評価を位置づけた 単元構成の工夫	教科横断的な学習、 カリキュラムマネ ジメント

### 3. 研究内容Ⅰ（子ども）『やるキッズタイム』

指針1 児童生徒の主体性を育む探究的な教育活動	① 従来の教育課程で育成する資質・能力を基盤とし、更なる充実・発展を意図した教育活動の質的向上を図る取組
	② 自らの興味・関心や学習上の課題等に対し、児童生徒が主体的に探究的な学習活動を選択・判断できる柔軟性のある教育活動
	③ 児童生徒や学校の実態及び地域がもつ特性や教育力を最大限に生かした教育活動の工夫
	④ 児童生徒の意見を聴取したり意思決定に参画したりするなど、児童生徒の自主性や主体性を高める工夫

内容を学ぶ < 学び方を学ぶ

#### 【目指す子どもの姿】

志摩中校区で目指す子どもの姿				
発達段階	低学年	中学年	高学年	中学校
目指す姿	自分のよさを知る	自分のよさを活かす	自分のよさを活かしながら、課題を見つけてチャレンジする	自分のよさを活かしながら、自分で課題を見つけて解決する

### 3. 研究内容Ⅰ（子ども）『やるキッズタイム』

#### 【目指す子ども】

高学年
深める
中学年
広げる
低学年
知る



わくわくすることに、  
チャレンジできた！

未知なる課題に  
挑戦



わくわくすることを、  
もっと知ることができた！

未知から  
既知に



わくわくすることが、  
できた！

未知を  
楽しむ

### 3. 研究内容Ⅰ（子ども）『やるキッズタイム』

#### 【探究テーマ】

	テーマ	内容	活連例
低学年	「わくわくすること、 なあに？」 【知る】：先生と一緒に	『地域人材』 『体験活動』 を基にして	『生活科』『昔遊び』 学校、野菜、虫、植物、季節を 楽しむ、町のこと、昔遊び 等
中学年	「わくわくすることを、 もっと知ろう！」 【広げる】：自分と先生で	『興味・関心』 『教科学習』 を基にして	『〇〇科』の「△△」の学習を もっと～ 等
高学年	「わくわくすることに、 チャレンジしよう！」 【深める】：自分で	『社会の諸問題』 『キャリア』 を基にして	日本のこと、世界のこと、 自分の将来を見据えて 等

指針1  
児童生徒の主体性を育  
む探究的な教育活動

- ① 従来の教育課程で育成する資質・能力を基盤とし、更なる充実・発展を意図した教育活動の質的向上を図る取組
- ② 自らの興味・関心や学習上の課題等に対し、児童生徒が主体的に探究的な学習活動を選択・判断できる柔軟性のある教育活動
- ③ 児童生徒や学校の実態及び地域がもつ特性や教育力を最大限に生かした教育活動の工夫
- ④ 児童生徒の意見を聴取したり意思決定に参画したりするなど、児童生徒の自主性や主体性を高める工夫

### 3. 研究内容Ⅰ（子ども）『やるキッズタイム』

#### 【探究活動サイクル】



	探究活動サイクル	(例)
⑥	振り返り，再挑戦	他者評価，次回の発表会に向けて，来年度に向けて
⑤	まとめ，表現	表現物の提示，中間報告（最終報告）
④	整理・分析	分かったこと，できるようになったこと，思ったこと
③	情報の収集，実践	ダンスの先生から学ぶ，ダンス練習，ダンスについて調べる 等
②	(課題) 目標・計画の設定 最終目標や中期目標	〇〇ダンスができるようになる，笑顔でダンスをする 等
①	目的とする姿を明確にする	ダンスが上手になりたい！ ★〇〇博士，〇〇名人になりたい！
⑦	自分を知る ⇒ 好きなことって、ワクワクすることって、自分って・・・	自分ってダンスが好きだな・・・

※ 目的：なりたい姿のための ⇒ 目標：〇〇する ⇒ 内容：そのために・・・

### 3. 研究内容Ⅰ（子ども）『やるキッズタイム』

#### 【探究に向かうための具体的な手立て】

##### ① 発達段階を考慮した支援

低学年	*導入 目標・計画の設定段階に対して	<b>【一斉体験】</b> ○昔遊びを体験 ○季節を体験 等
中学年	*展開 情報の収集，実践段階に対して	<b>【わくわく教師ゼミ】</b> ○既知を伝える。『楽しさ』 ○未知に挑戦していることを伝える。『挑戦』
高学年	*結末 整理・分析段階に対して	<b>【資料提示とまとめ方】</b> ○桜野校区の課題，日本・世界の諸問題 等 ○プレゼンの作り方，実演 等

##### ② 探究活動に向かうために

- 全体説明の設定
- 教師の支援方法の共有（発問、場の準備、GT 等）

##### ③ 探究場の設定

- 探究時：自分の探究活動に合った場所の選択
- 発表時：検討中

# 3. 研究内容Ⅰ（子ども）『やるキッズタイム』

【取り組み期間】

約10コマ程度を1クール×3

	全体	委員会	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4月			学級づくり					
5月		総務	体カづくり					
6月			個人	個人	個人	個人	個人	個人
7月			個人	個人	個人	個人	個人	個人
			第1回発表会：7月8日（5・6年）★たてわりにて★、13日★学級？					
8月								
9月			個人	個人	個人	個人	個人	個人
10月			個人	個人	個人	個人	個人	個人
			第2回発表会：10月中旬 ★実施方法検討中★					
11月			個人	個人	個人	個人	個人	個人
12月			個人	個人	個人	個人	個人	個人
			第3回発表会：12月中旬 ★実施方法検討中★					
1月			個人	個人	個人	個人	個人	個人
2月			個人	個人	個人	個人	個人	個人
			最終発表会：3月？					
3月								

【アンケート】計3回

（①自分を知るためのアンケート）

- ①第1回発表会後のアンケート
- ②第2回発表会後のアンケート
- ③第3回発表会後のアンケート

【表現物・記録】

- ・わくわくノート（タブレット）
- ・探究活動中の様子
- ・発表会の様子
- ・わくわくコーナーの設置

【発表会】

- ・学級，たてわり 等で行う
- ・保護者，地域，GT参加も検討
- ・形式は自由（実演，紹介等）

【教員配置】

- ・場所配置（検討中）

### 3. 研究内容Ⅰ（子ども）『やるキッズタイム』

#### 【取り組み期間】

	月	火	水	月	火	水	月	火	水	月	火	水
6月	/	/	全体説明	/	/	/	モデル提示・計画	1-①	①-2	1-③	1-④	1-⑤
7・8月			1-⑦	1-⑧	1-⑨	1-⑩	第1回発表会	第1回発表会	ふア1	/		
9月		計画	/	/	2-①	2-②	2-③	2-④	2-⑤	2-⑥	2-⑦	2-⑧
10月	2-⑨	2-⑩				2-⑪		第2回発表会	ふア2	計画	3-①	3-②
11月	/		3-③			3-④	/		3-⑤		3-⑥	3-⑦
12月	3-⑧	3-⑨	3-⑩	/	第3回発表会	/	第3回発表会	第3回発表会	ふア3	/	計画	計画
1月					4-①	/	/	4-②	/	/	4-③	4-④
2月	/	4-⑤	4-⑥	4-⑦		4-⑧	4-⑨	4-⑩	発表会	発表会		発表会
3月	ふア4			/								

※/は、「読み聞かせ」「行事関係」「児童会関係（委員会関係）」等であるため、活動の見直し・別時間の確保を検討中です。

※青の□は、休日や特別時制のため、なしです。

※発表会の形式は、検討中です。

※ふ・ア1, ア2, ア3, (ア4) は、ふりかえり・アンケート, のことです。

## 4. 研究内容Ⅰ（教師）『ゴールデンタイム』

### 指針2

自ら学び続ける教師を  
目指した教職員の資  
質・能力の向上を図る  
取組

- ① 教職員自らの強みや課題意識に基づき、教職員自らが企画・運営を行うなど、主体的に資質能力の向上に取り組むことができる柔軟な研修等の機会の設定
- ② 児童生徒の教育相談や学校外の方々と教職員が協働的に取り組む活動の設定
- ③ 教職員の資質・能力の向上を効果的・効率的に図るために、個人目標の設定や取組内容の決定への福岡県教員育成指標の活用

### 【昨年度】

- ・職員作業（梅ちぎり）
- ・職員作業（プール掃除）
- ・会議（研究推進委員会）
- ・会議（評価委員会）
- ・職員作業（特別教室の整理）
- ・会議（互助会贈呈式）
- ・研修会（教育課程編成作業）

- ・『学級事務（教材研究）』
- ・『漂流物を使った作品作製』
- ・『福大生とニュースポーツ』
- ・『ニュースポーツ』・『ペタンク』
- ・『福岡マラソン準備』
- ・『卵料理』・『昔遊び』
- ・『ピラティス』・『巣箱プロジェクト』
- ・『ビブリオバトル』

### 【今年度の進行計画】

- (1) 『強み』や『課題意識』，『わくわくすること』に関するアンケート
- (2) 実行計画（グループ編成，活動日程の調整，GT 等）
- (3) 実践研修
- (4) アンケート

### 【今年度の活動内容】大まかに2つ

- 「研究開発組織図」に基づいたグループ会議（40分授業，やるキッズ，ゴールデン）
- (1) の「アンケート」に基づいた教職員の資質・能力向上に関わる研修

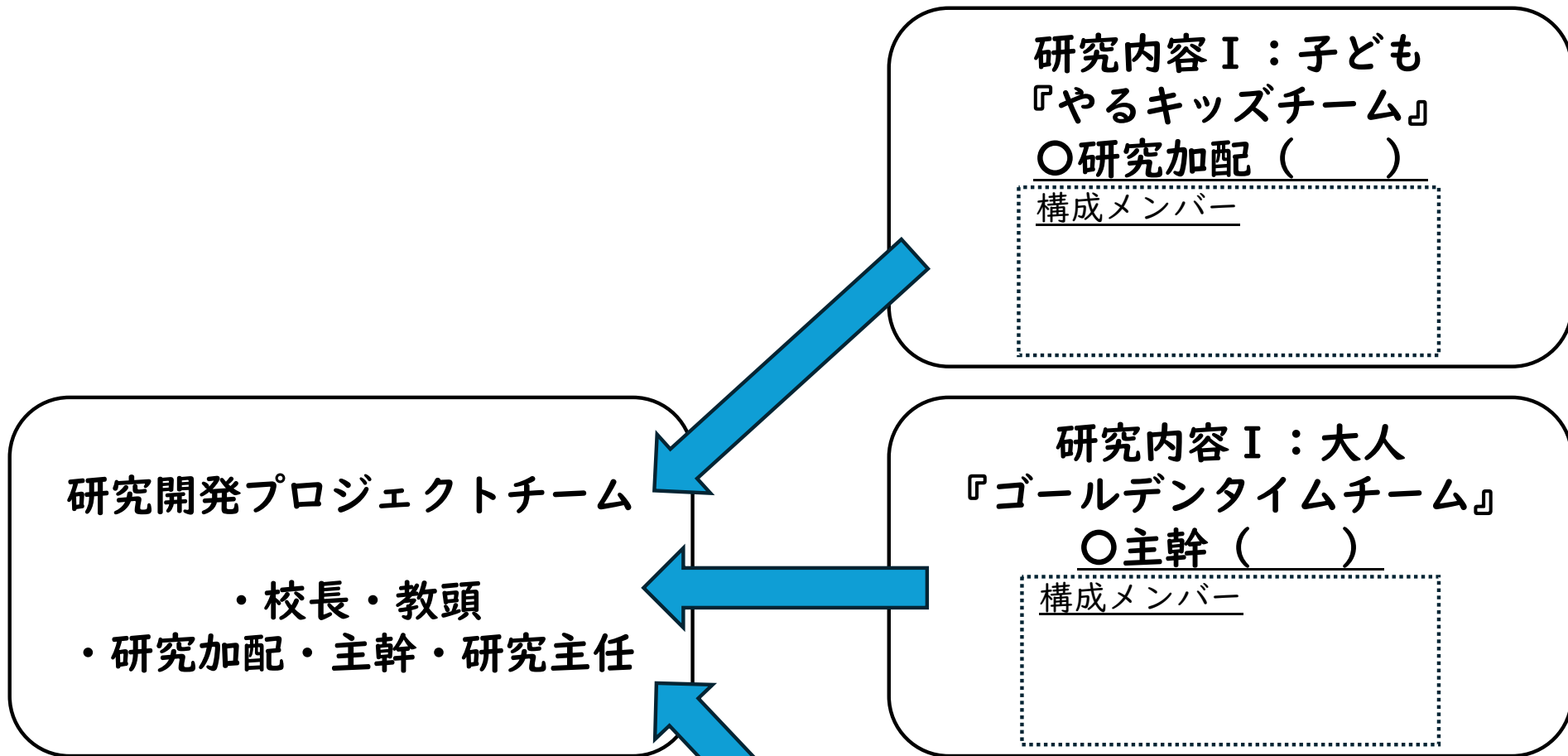
## 5. 研究内容Ⅱ（40分授業）『主題研究』

研究内容Ⅱ  
「各教科等の授業時間  
短縮に応じた授業にお  
けるカリキュラム・マネ  
ジメントの在り方」

- ① 教科等における内容を効果的・効率的に学ぶカリキュラム・マネジメント及び教科等横断的なカリキュラムのデザイン
- ② 授業時間短縮に応じた指導過程の最適化
- ③ 知識及び技能の習得や習熟、思考力、判断力、表現力等を育成するための、効果的・効率的な支援や指導の手立ての創出
- ④ 児童生徒の学びを一定のまとまりとして捉えて行う学習評価の内容や方法の整理と適正化

※別紙

## 6. 研究組織図



※低・中・高の担任は『やるキッズ』か『40分授業』に分かれてください。  
※決まったチームで、ゴールデンタイムの時間を使って、話し合っていたらいいなと思っています。  
※希望アンケートをとらせていただきますが、人数や経験年数等、バランスをみて最終的には決めさせていただきます。

## 7. おわりに

楽しいな！  
もっと、わくわくしたい!!

〇〇って、どういうこと！？  
もっと、調べてみたい!!

『なりたい姿』を目指して

探求的に

お～！  
おもしろそうだね！

近くに名人  
いないかな。

何が必要  
かな？

〇〇してみたら、もっとわくわく  
しそうじゃない？

〇〇について  
調べてみると、  
もっと詳しく  
わかるかもしれ  
ないね！

なんで、〇〇のよう  
になっているん  
だろうね。

【教師】 **子どもの「やってみよう！」を支援する力の育成** ※意欲付けや仕掛け

先生も

『わくわくすること』やってみよう！